様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	博物館展示事業	コード	111110

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林　隆

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	文化・芸術の振興
	予算科目	展示事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし（選択的事業）		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		収蔵資料の展示により岡谷の製糸業の歴史や文化等を再認識するとともに、岡谷に誇りを持てる心を養う。
目的	対象者	市民及び来館者
	意　図	郷土愛の醸成、市民の文化芸術の振興、地域活性化

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

・LIFE with SILK 絹のある生活－岡谷シルク再発見－
開催期間：2016.11.3 ～ 2017.1.30（　70日間）５，６７０人
関連イベント：機織り実演【会期中の毎週土・日曜日】
手織り制品展示即売会【11月11日（金）～13日（日）】
ワークショップ　　真綿って何？　2回　35人

・岡谷の工女さん～製糸業を支えた女性たち
開催期間：2017.2.22 ～5.22（49日間）７，３８１人　※2017.3.31現在
関連イベント：ギャラリートーク　2月19日（日）　　参加者30人
公開講座　聞こう、語ろう、工女さんのこと　3月12日（日）参加者50人
ワークショップ　工女さんになって糸取り体験　2回　参加者　18人

前年度の課題への対応	・博物館が収蔵する資料を効果的に紹介

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	収蔵品展の開催日数			単位　日
実績値	198	118	119	
＊指標の説明				
② 成果指標（指標名）	１日あたりの入館者数			単位　人
目標値	100	100	100	―
実績値	160	154	109	
達成度	160.0%	154.0%	109.0%	
＊指標の説明	蚕糸博物館の１日あたりの入館者数			
＊目標値の設定方法の説明	入館者推計の目標値における１日あたりの入館者数			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	2,093,779	492,611	407,314	0
経常経費	365,573	492,611	407,314	
臨時的経費	1,728,206	0	0	
＊臨時的経費の説明	平成26年度のみ臨時的経費として計上			

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費	7,200,000	3,200,000	3,200,000	0
正規職員の人数（人）	0.90	0.40	0.40	
③ 合計コスト（①＋②）	9,293,779	3,692,611	3,607,314	0
前年度比		39.7%	97.7%	0.0%
財源内訳 一般財源	9,293,779	3,692,611	3,607,314	0
財源内訳 特定財源			0	
＊特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	38,210	31,293	30,314	
前年度比		81.9%	96.9%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	#DIV/0!

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　妥当性　高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　有効性　標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　70.8%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　109.0%	1	

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ・魅力ある博物館収蔵品展の継続的な開催	
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・企画展開催事業との統合	
	改善開始時期	平成29年4月～

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	28年度末廃止・完了・統合見込み	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B